



EURO Indicators

定例経済指標レポート

ユーロ圏 製造業PMI (2006年3月)

発表日：2006年4月3日(月)

～拡大ペース加速～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 齋藤 俊輔 (03-5221-4547)
桂畑 誠治 (03-5221-5001)

ユーロ圏製造業PMI

		総合								ドイツ	フランス	イタリア
		生産	新規受注	雇用	配達時間	在庫	投入価格	産出価格				
2005	3	50.4	51.6	50.4	48.8	48.3	48.5	59.8	52.2	50.3	51.9	49.1
	4	49.2	50.3	48.9	47.6	49.2	48.1	57.2	50.0	49.7	49.8	48.0
	5	48.7	50.0	48.5	47.5	50.0	46.7	50.7	48.9	49.4	48.8	47.1
	6	49.9	51.0	50.9	48.2	49.5	46.8	50.0	48.6	49.8	50.7	49.4
	7	50.8	52.8	52.3	47.8	48.8	46.6	51.3	49.6	49.8	51.9	50.8
	8	50.4	51.8	51.7	48.3	48.9	46.6	56.3	50.5	48.7	52.5	50.0
	9	51.7	53.8	53.2	48.9	47.6	47.0	59.1	50.5	51.0	52.7	51.5
	10	52.7	54.3	54.3	49.9	45.9	47.3	62.8	51.3	53.1	52.5	52.0
	11	52.8	54.8	54.4	49.9	45.6	46.1	62.6	51.5	52.7	51.8	53.1
	12	53.6	55.8	56.0	50.3	45.8	46.4	62.2	51.4	53.6	52.2	54.1
	2006	1	53.5	55.9	55.5	49.6	45.5	47.9	63.0	51.8	55.0	50.7
2		54.5	57.0	56.7	49.7	43.6	48.1	64.8	53.4	55.8	52.2	55.1
3		56.1	59.0	58.9	50.9	42.7	48.9	62.5	54.4	58.1	54.6	55.5

(出所) ロイター

56.1 と市場を上回った

3月のユーロ圏製造業PMIは56.1(前月差+1.6p)と2ヵ月連続の上昇となり、市場予想(コンセンサス:54.9、レンジ:54.2~55.5)を大幅に上回る結果となった。項目別にみると、生産指数が59.0(同+2.0p)、新規受注指数が58.9(同+2.2p)と大幅な上昇を示した。両指数の改善幅は前月比+2pを超えており、生産活動のモメンタムが一段と強まっている。

雇用指数は50.9(同+1.2p)と、活動の拡大を示す50を上回ったものの小幅なものにとどまっており、家計部門への波及が限定的なものにとどまっている。

価格指数については、投入価格が62.5(同▲2.3p)と低下に転じており川上でのコスト上昇圧力がやや緩和した。一方、産出価格が54.4(同+1.0p)と、川下の製品への価格転嫁が徐々に進捗していることが窺え、物価上昇圧力の高まりと企業の交易条件の改善を示唆している。

ユーロ圏全体で底堅い改善

国別でも、ドイツ(58.1、前月差+2.3p)、フランス(54.6、同+2.4p)、イタリア(55.5、同+0.4p)、スペイン(54.74、同+2.0p)と主要国が揃って改善を示した。各国とも海外受注の拡大に加え、国内受注の増加が新規受注を押し上げた。中でも製造業PMIの上昇を主導しているのはドイツである。総合指数は58.1(同+2.3p)と他のユーロ圏諸国の水準を上回っており、ITバブル期の2000年8月以来の高水準に達した。生産が61.8(同+2.6p)、新規受注が61.9(同+3.4p)と共に改善幅を拡大、高水準を維持しており好調ぶりが目立っている。域内外での設備投資の拡大を背景に資本財関連の受注、生産が伸びているとみられる。

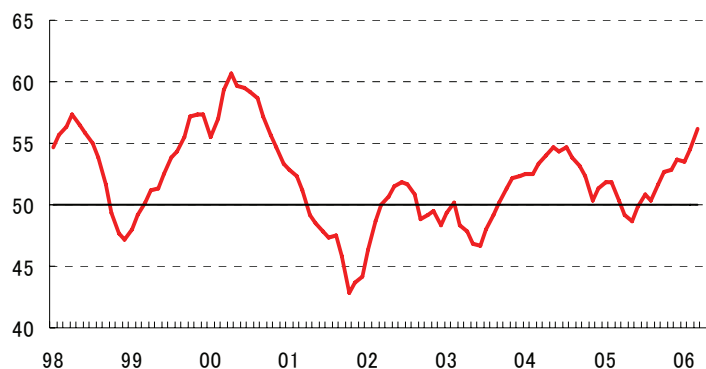
同様にフランスやイタリアでも、生産や新規受注も拡大していることから、広がりを伴いながらユーロ圏の製造業が拡大ペースを加速している。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

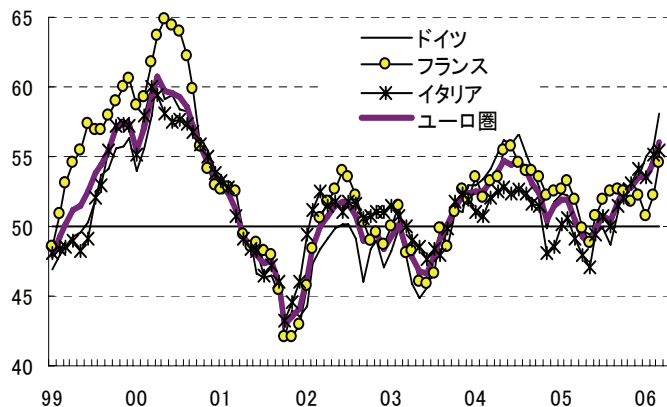
**2006 年前半に成長
ペースが加速**

ユーロ圏の製造業は世界的な景気拡大を背景に堅調さを増している。依然としてユーロ圏経済は企業部門主導の拡大となっているが、足もとで家計部門にも回復の兆しが見え始めている。小売業など家計部門に関連した業種の企業景況感が足下で改善傾向を辿っている。消費者側をみても、消費者マインドの水準自体は低いものの緩やかな持ち直しが続いている。特に、個人消費の低迷が続いていたドイツでは、高水準ながら失業率が改善に向かっているため、消費マインドが改善傾向を辿っている。以上のように、2006 年前半のユーロ圏では企業部門の好調が持続することに加えて、個人消費が緩やかに回復することで、成長ペースが小幅加速すると予想される。

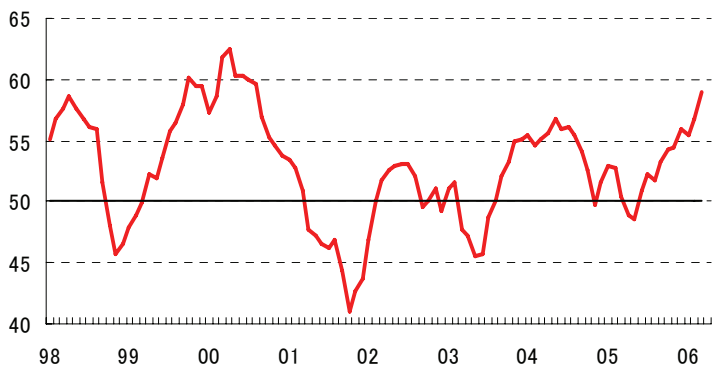
ユーロ圏製造業PMI
(総合)



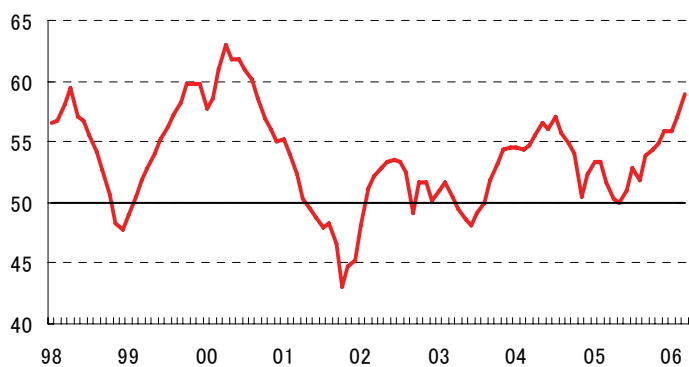
ユーロ圏製造業PMI



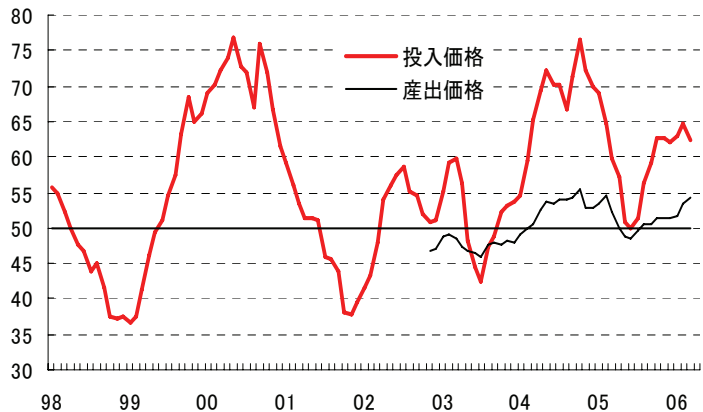
ユーロ圏製造業PMI
(新規受注)



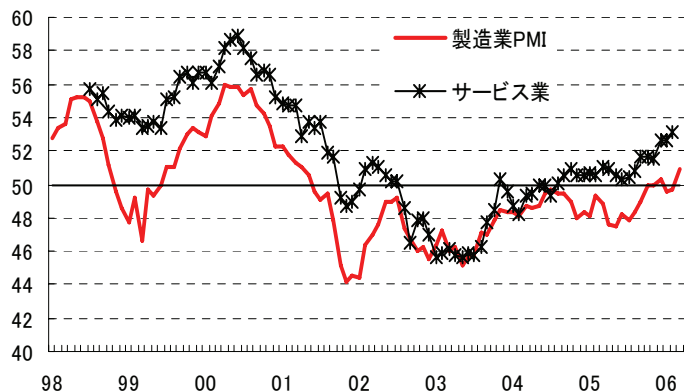
ユーロ圏製造業PMI
(生産)



ユーロ圏製造業PMI
(価格)



ユーロ圏製造業PMI
(雇用)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。